

第4章 教育内容・方法・成果

2) 教育課程・教育内容

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

1. 現状の説明

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【評価の視点】

○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置

- ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
- ・教育課程の編成にあたっての順次性・体系性への配慮
- ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定
- ・授業科目の位置づけ（必修、選択等）
- ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定

（＜学士課程＞初年次教育・高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等、
＜修士課程・博士課程＞コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等）

○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

＜1＞ 大学全体

1)各学部・研究科は、カリキュラム・ポリシーに基づき、教育要項にて当該年度に開講する科目の一覧を掲載するとともに、各授業科目の配当年次を明記しており、教育課程の順次性を確保している。

（資料4-2-1 医学部教育要項）

（資料4-2-2 医学部年間授業時間割表）

（資料4-2-3 スポーツ健康科学部シラバス）

（資料4-2-4 スポーツ健康科学部年間授業時間割表）

（資料4-2-5 医療看護学部教育要項）

（資料4-2-6 医療看護学部履修要項）

（資料4-2-7 医療看護学部年間授業時間割表）

（資料4-2-8 保健看護学部教育要項）

（資料4-2-9 保健看護学部年間授業時間割表）

（資料4-2-10 国際教養学部教育要項）

（資料4-2-11 国際教養学部年間授業時間割表）

（資料4-2-12 大学院医学研究科修士課程シラバス）

（資料4-2-13 大学院医学研究科修士課程年間授業時間割表）

（資料4-2-14 大学院医学研究科博士課程シラバス）

（資料4-2-15 大学院医学研究科博士課程年間授業時間割表）

（資料4-2-16 大学院スポーツ健康科学研究科シラバス）

（資料4-2-17 大学院スポーツ健康科学研究科年間授業時間割表）

（資料4-2-18 大学院医療看護学研究科教育要項）

（資料4-2-19 大学院医療看護学研究科年間授業時間割表）

2)授業科目の体系的理解を促すため、2014(平成26)年度より、カリキュラムマップ、ナンバリ
ングをシラバスに掲載している。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

- 3) 医学部及びスポーツ健康科学部では、常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、「人
在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心」、『仁』の心を涵養し、集団の中での個を確立する
ために、1年生全員が学生寮(啓心寮)に1年間入寮することになっている。
- 4) 国際化に対応するため、英語教育については TOEIC から TOEFL へ全学的に移行している。

〈2〉 医学部

- 1) 教育課程を体系的に編成し、学習内容の順次性と科目間の関連性を俯瞰できるように、カリ
キュラムマップ・ナンバリングを策定した上で教育要項に掲載し、学生に周知している。
(資料4-2-20 医学部カリキュラム概要図)
(資料4-2-21 医学部カリキュラムマップ)
(資料4-2-22 M2~M6 ナンバリング)
- 2) 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識と確実な技術を身に付け
るため、1年次に少人数による特定の課題を議論と思考で進める PBL(Problem based
learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力の向上を図っ
ている。また、後期中等教育から円滑な本学医学部教育への移行を可能とする配慮として、
1年次に、高校在学時に未履修の理科科目を履修することを必修としている。
- 3) 2年次以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連付け、体系的に学
び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の統合型カリキュラムを採用している。知
的好奇心や知的感動を与える授業を重視しており、学生による授業評価により教員の教育力
向上を図っている。将来研究者を目指すもの、研究に興味を持っているものを対象とし、平
成24年度文部科学省「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」
事業「(A)医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」に採択された「基礎研究医
養成のための順天堂型教育改革」により整備された基礎研究医養成プログラムが設けられて
おり、基礎研究への探求心を育む取り組みをしている。
- 4) 3年次には、科学的思考能力を高め、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣
を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定している。
- 5) 入学後の早い時期から病院実習、看護実習、施設実習、診察技法・基本手技実習等の体験実
習を行っている。医療職の一員として医療に参画することによって、多様な職種の専門家と
の連携や共同作業を行えるパートナーシップ能力の涵養を目指している。特に、4年次後半
からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能をもつ医学部附属6病院で、患者を受
け持ち、実際に医療チームに加わることによって、臨床能力を身に付けることを求めている。
- 6) 国際社会に役立ち、豊かな教養を養うため、教養教育を重視するとともに、TOEFL、IELTS な
ど実践英語を1年次から高学年まで課している。6年次には、国内だけでなく海外の施設で
臨床実習を行うことができる(8週間、留学先は自ら選択)。また、研究留学・海外研修等で
英語力を問われるケースに対応し、TOEFL、IELTS などの国際基準の英語テストで高得点を獲
得するための高度な Academic English の力を養成すること、ハイレベルな英語でのプレゼ
ンや医療面接の指導を目的として、「順天堂国際医学教育塾」を開講している。同塾では、
将来的に海外で活躍する医師を養成することを目的として、米国医師免許(USMLE)取得を目
指す学生に対する支援も行っている。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 三学科共通開講科目は、三学科共通必修科目 3 科目 8 単位、各学科の選択必修科目 10 科目

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

20 単位、選択科目 13 科目 26 単位を配当している。学部共通の必修科目として、大学生としてのあるべき姿・考え方、人間としての倫理観、日本人としての国語力のほか、アンチ・ドーピングや人権尊重の精神の徹底を図るために「総合講座Ⅰ」・「総合講座Ⅱ」、「生命の倫理学」、「国語表現法」の授業科目を開設しており、バランスよく基礎教養を学べるよう編成している。

- 2)各学科に特徴的な科目を必修科目とし、その内容を理解・発展させるための科目を選択必修科目として配置し、それぞれの専門性を学年進行に応じて高められるように、カリキュラムを体系的に編成している。

(資料4-2-23 スポーツ健康科学部カリキュラム体系図)

- 3)総単位数は、必修・選択必修科目が 90～95 単位であり、選択科目が 29～34 単位である。必修科目のうち学部共通科目は 12 単位、学科必修科目は 26～28 単位(スポーツ科学科については、更にコース必修 12 単位)となっており、各学科の専門性を育みながら学生各自の専門性・興味に応えられる単位の配分となっている。

- 4)カリキュラム・ポリシーによって示されている方針が、どの科目によって達成されるのかを示すカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成している。また、履修にあたり各授業科目の水準を表す科目ナンバリングを作成している。

(資料4-2-24 スポーツ健康科学部カリキュラムマップ)

(資料4-2-25 スポーツ健康科学部カリキュラムツリー)

(資料4-2-26 科目ナンバリング)

- 5)外国語科目は、英語教育を中心に、異文化理解とコミュニケーション能力を身に付けさせる教育内容を提供している。

- 6)スポーツ科学科では、学科開講科目として、体力の保持増進並びに競技力向上に貢献できる人材の養成のために、スポーツ医学やスポーツ関連諸科学の基礎理論、最新のスポーツ科学の知見に基づくトレーニング方法や高度な運動技能開発等を修得するための科目を配置している。2 年次から自然科学をベースにスポーツに伴う生体反応や運動技能の分析等を学ぶ「スポーツ医科学コース」とスポーツ医科学の知見に基づき体系化された知識と方法を運動指導の場で実践する指導技術を学ぶ「コーチング科学コース」を設けている。

- 7)スポーツマネジメント学科では、スポーツ産業、レジャー産業、公共のスポーツ施設、健康産業等のマネジメントとコミュニケーションの質的向上に貢献できる人材養成のために、スポーツの社会的機能をより効果的に遂行できるマネジメントの理論及びスポーツイベント等の企画・運営やスポーツに係る情報並びにコミュニケーションの社会的機能に関する知識・技能を修得するための科目を配置している。

- 8)健康学科では、学校・職場・地域社会等における組織的・体系的な健康づくりに貢献できる人材の養成のために、ヘルスプロモーションに基づく「健康的なライフスタイルづくり」と「健康的な生活環境づくり」の二つの側面を深め、健常者、病者、障がい者が自らの生き方を改善することによって、人生や生活の質を高めていく理論と実践方法を修得する科目を配置している。

- 9)これらによって提供される本学部の教育内容の特色は以下の通りである。

(1)中核的な科目については、語学を除いて 46 科目にわたる多様な実験・実習の機会を提供することにより、深い知識を体験的に修得できるようにしている。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

- (2) 専門科目の段階的修得に配慮し、自由度の高い科目選択制度を設け、学科横断的科目を開講することにより、学科間の相互交流を教育課程の次元で確保できている。
- (3) 卒業所要単位に関しては、必修科目を少なく抑え、他学科開講科目や医学部、医療看護学部開講の一般教養教育科目も履修可としている。254の開講授業科目の中から個人の興味、進路希望に即した自由度の高い履修を可能としている。
- (4) ゼミナールは、3年次と4年次に毎週2時間、計120時間で8単位としている。
- (5) 必修の「生命の倫理学」では、スポーツ・健康を学ぶ学生にとって重要である生命に対する尊厳を身に付ける機会を提供している。
- (6) 英語以外の外国語として、ドイツ語、フランス語を開講している。
- (7) 学部教育に円滑に移行することを目的として、入学直後に「総合講座Ⅰ」を開講し、4年間に学修すべき内容を理解するとともに「大学で何を学ぶか」について考える機会を作っている。同講座(前期)は高校までに各自が受けてきた教育と、これからの大学4年間で学ぶ目的・内容を結びつける内容となっており、初年次教育におけるガイダンス機能を果たしている。
- (8) 「総合講座Ⅱ」は、2年生に対して社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する内容となっている。
- (9) A0 入試(トップアスリート選抜)とスポーツ推薦入試による入学予定者は入学までの学業の空白期間が見込まれるため、1月の2日間、さくらキャンパスにて個人ワークやグループワークを専任教員の指導のもとで実施し、入学までに身に付けるべき基礎学力を涵養するとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力を高める集合教育の機会を設けている。A0 入試(一般選抜)、A0(教員志望選抜)及び一般推薦の合格者には通信教育を義務付けている。

〈4〉 医療看護学部

- 1) 授業科目を4つの科目群(「人間と教養」、「人間の健康」、「看護の理論と方法」、「医療看護の統合と発展」)に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。
(資料4-2-27 医療看護学部カリキュラム図)
- 2) 卒業要件及び看護師国家試験受験資格要件は124単位以上、看護師・保健師国家試験受験資格要件は130単位以上、看護師・助産師国家試験受験資格要件は138単位以上、看護師・保健師・助産師国家試験受験資格要件は146単位以上を取得することが条件となっている。
(資料4-2-28 医療看護学部 卒業要件及び看護師・保健師・助産師国家試験受験資格要件)
- 3) シラバスには、カリキュラムマップ、ナンバリングを掲載しており、学生が入学から卒業までのカリキュラム全体を俯瞰し、自身のキャリアデザインを描くことが出来るよう配慮している。
- 4) カリキュラム・ポリシーに記載した4つの科目群ごとに以下のように教育内容を提供している。
 - (1) 「人間と教養」の群では、「人間の理解」(8科目)、「人間と社会」(6科目)、「人間と自然・技術」(10科目)、「人間と言語表現」(8科目)、「スポーツと健康」(5科目)、「ゼミナール」(2科目)の6領域39科目を設けている。これらの履修により人間の本質と生命の尊

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

厳を学修し、豊かな人間性を養うとともに、人類が築いてきた文化を尊び、人間をとりまく社会や自然に対する洞察力、理解力を養い、また、現代社会に必要なスキルを修得し、生涯にわたり自己研鑽する態度と方法論を身に付ける。教養科目の一部は、さくらキャンパスにおいて医学部・スポーツ健康科学部の学生たちと共に学ぶ機会を設けている。

- (2)「人間の健康」の群では、「健康と社会」(10科目)、「心の健康」(5科目)、「健康と医療」(12科目)の3領域27科目を設けている。これらの履修により個人、家族、地域社会で生活する人々の健康を支える環境と社会的仕組みについて基本的事項を理解し、また、人間の生命の営み、健康の維持増進、疾病障害の原因と病態・治療について科学的に学び、保健・医療・福祉の各分野の基礎的理解の上にそれらの連携を、看護との関わりから理解する。
- (3)「看護の理論と方法」の群では、「看護の基本」(9科目)、「ライフステージと看護」(15科目)、「ウイメンズヘルスと看護」(11科目)、「ソーシャルライフと看護」(15科目)の4領域50科目を設けている。看護の理論と実践を系統的に学び、看護実践に必要なとされる基本的な知識、技術及び態度を修得し、学んだ知識と技術をもとに看護実践力を養う。
- (4)「医療看護の統合と発展」の群では、保健・医療・福祉を学修できる科目を設定して、看護に関わる知識を統合的に理解できるようにし、質の高い看護を提供する実践能力を養っていくための1領域21科目を設けている。
- 5)臨地実習は、4年間を通して段階的に学修できるように配置している。1年次は、後期の12月に1週間、附属病院(順天堂医院、浦安病院、練馬病院、順天堂東京江東高齢者医療センター)で「基礎看護学実習Ⅰ」を、2年次は前期の7月に2週間、附属病院及び地域の医療保険福祉施設などで「基礎看護学実習Ⅱ」、「高齢者ケアシステム実習」を行っている。3年次は10～11月、4年次は5～6月の計4か月間にわたり、分野別で臨床実習が行われる。更に4年次では、各学生が希望する国家試験受験資格に応じた実習が行われる。これらの実習を通じて、実践的な知識や態度が培われるとともに、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力が育成される。
- 6)入学前に「英語」、「生物」、「化学」の3科目に関して、本学部で学ぶ上で必要と考えられる高校の学習内容について、入学予定者全員に課題を課し、入学時に試験にて学力を把握し、必要に応じて個別指導を行っている。また、学生が看護学を学ぶ上で入学までに学んでおくべき自然科学・生命科学に関する知識を確認し、自己学習を促す講義として「生命現象の理解」を4月から5月にかけて開講している。更に、入学後のカリキュラムの中で「生物」、「基礎化学」は、いずれも一般教養の選択科目であるが、看護学においても自然科学の知識は必須であることから、高校でそれらの科目を履修しなかった学生に対して、積極的に選択するように指導している。履修状況は次の通りである。

	2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度
生物	196名	190名	187名
基礎化学	141名	95名	126名

- 7)保健師課程を希望する学生には、保健師免許の取得を強く希望している者であること、あらかじめ2年次に開講される「法と生活(日本国憲法)」を選択し履修しておくことを条件としている。専門科目としては、3年次と4年次に開講する「地域保健活動論」、「学校保健」、「産

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

業保健」、「地域診断実習」、「公衆衛生看護学実習」を履修しなければならない。また、保健師免許を取得後、申請によって養護教諭2種免許を取得するためには、1年次又は2年次に開講される「情報科学」、「医療とコンピュータ」、「統計学演習」から2科目履修し、1年次に開講される「野外スポーツ実習」、「レクリエーションスポーツ」から1科目履修しておくことが必要となる。

- 8) 助産師課程を希望する学生は、3年次前期から4年次後期に開講される「母性の心理・社会学」、「性と生殖」、「助産学概論」、「助産診断技術学総論」、「妊娠期の助産診断技術学」、「分娩期の助産診断技術学」、「助産学実習」、「助産管理」、「助産管理実習」、「地域母子保健実習」、「育児期の援助論」(計23単位)を履修しなければならない。助産師課程を希望する学生が多い場合には、希望者の中から、3年次に10名程度を選抜試験の成績とそれまでの学業成績等を総合評価して決定している。
- 9) 4年間にわたる英語教育や海外研修により、次世代の看護職者として国際的に活躍できる人材の育成に取り組んでいる。英語に関する科目は、1年次に「英語多読多聴Ⅰ」、「英語表現(スピーキング)」、2年次に「実践看護英語」、3年次に「英米文学」、「英語多読多聴Ⅱ」、「メディア英語」、4年次に「医療英語講読」を開講している。なお、基礎となる1年次の英語では、「英語多読多聴Ⅰ」でTOEFL ITPの結果に表れるような英語力を修得し、「英語表現(スピーキング)」をネイティブスピーカーによる会話を中心とした授業としている。英語以外の外国語は、1年次に「中国語」と「フランス語」を開講している。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 教育課程は次のとおり、4つの群(「人間と教養」、「人間の健康」、「看護の理論と方法」、「保健看護の統合と発展」)を体系的に編成し、以下の教育内容を提供している。

(資料4-2-29 保健看護学部カリキュラム概念図)

(資料4-2-30 保健看護学部授業科目一覧表(履修計画表))

(1) 「人間と教養」

人間の本質と生命の尊厳を学修し、豊かな人間性を養うとともに、人間をとりまく社会や自然に対する洞察力、理解力を養い、現代社会に必要なスキルを修得し、生涯にわたり自己研鑽する態度と方法論を身に付ける分野で、次の6領域で編成されている。①「人間の理解」(6科目)、②「人間と社会」(6科目)、③「人間と自然・技術」(6科目)、④「人間と言語表現」(7科目)、⑤「スポーツと健康」(4科目)、⑥「教養ゼミナール」(1科目)の計30科目の中から22単位以上の履修が課せられている。この群では、選択科目を多く設けている。

(2) 「人間の健康」

個人、家族、地域社会で生活する人々とその健康を支える社会的仕組みや環境に関する基本的知識を理解し、人間の生命の営み、健康の維持増進、疾病・障害の原因と病態・治療について科学的に学び、また、保健・医療・福祉の各分野に関する基礎知識を身に付け、看護との関わりについて学ぶ分野となっている。本分野は3領域で編成され、「健康と社会」では4科目8単位が必修、「心の健康」では1科目1単位が必修、「健康と医療」では12科目17単位が必修で、残りの3単位以上を選択科目から履修し、合計29単位以上の履修を課している。

(3) 「看護の理論と方法」

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

看護の理論と実践を系統的に学び、看護実践に必要とされる基本的な知識、技術及び態度を修得する。それぞれの分野の概論、保健活動論、看護方法論を学び、講義・演習で学んだ知識と技術をもとに看護実習を行い、看護実践力を養う分野である。3領域で編成されており、「看護の基本」では9科目13単位、「ライフステージと看護」では25科目33単位、「ソーシャルライフと看護」では18科目25単位がすべて必修となっている。

(4)「保健看護の統合と発展」

看護の今日的な課題やテーマについて、関連分野との関わりを統合して理解し、将来にわたる課題と方向性を考えさせるため、この科目群では、「看護研究」を必修とするなど、課題を掘り下げて理解するとともに、質の高い看護を提供し、看護の発展に貢献できる能力を培う分野となっている。2領域で編成され、「保健看護の統合」では1科目2単位が必修、「保健看護の発展」では2科目3単位が必修で、残りの3単位以上を選択科目から履修し、合計8単位以上の履修を課している。

- 2) シラバスにおいて、入学から卒業までの教育課程年間スケジュール表を示し、学生が学修目標を立て、自身のキャリアデザインを描くことが出来るよう配慮している。
- 3) 卒業要件の合計130単位に対し、一般教養系科目の卒業所要単位は必修・選択合わせて22単位であり、その割合は16.9%となっている。また外国語科目に関しても、必修単位は2単位、選択単位は10単位となっている。
- 4) シラバスにカリキュラムマップ、ナンバリングを掲載し、学習内容の順次性と科目間の関連性を体系的に理解できるようにしている。
- 5) 将来、看護師・保健師になるために欠かせない「倫理性」を培う教育を重視し、「看護倫理」を必修とし、「現代社会と倫理」を選択科目としている。また、実習要項において、倫理性を重視することについて説明するとともに、学生の倫理への意識が涵養されるよう指針を記載し、臨床実習前のオリエンテーションにおいて繰り返し注意を喚起している。病棟における臨地実習は、守秘義務等の医療者としての倫理性を培う教育の場となっている。
- 6) 国際化の進展に対応するため、英語をはじめとする外国語教育を重視している。英語教育の基礎はTOEFL形式を中心に進められ、その他にネイティブスピーカーによる授業を1・2年次に選択科目として設けている。英語に関する科目は1・2年次に4科目(英語Ⅰ(基礎)、英語Ⅱ(医療英語)、英語表現(スピーキング、ライティング))配置され、集中して学べる環境が整備されている。英語以外の外国語は、1年次に中国語、2年次にスペイン語が開講されている。
- 7) 看護学では自然科学の知識が必須であることから、入学後のカリキュラムの中で「基礎生物」、「基礎化学」について、高校でそれらの科目を履修しなかった学生に、積極的に選択するように指導している。2016(平成28)年度の履修状況は、「基礎化学」104名、「基礎生物」121名と在籍学生数の85~99%を占めている。
- 8) PC機器を利用した授業として、「情報科学」、「疫学・保健統計」がある。PC機器は、マルチメディア教室の他、校舎内の至る所に設置され、どのPCも学生が自由に使えるよう開放している。基礎看護学「生活援助技術演習」ではiPadを導入している。学生が援助技術の実際の映像を通して学ぶことで技術向上につながっている。マルチメディア教育に関しては、専門職員1名を配置し学生のPC利用を支援している。また、遠隔授業用のシステムも稼働しており、他学部との共同遠隔授業が実施されている。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

- 9) 「人間の健康」における臨床医学及び基礎医学の教育については、医学部出身の専任教員と医学部の兼任教員が担当し、基礎的な知識から最新の高度医療まで幅広く・深く教授している。
- 10) カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分については、卒業要件 130 単位に対し、看護系の必修科目が 76 単位、その他の専門科目のうち必修科目が 26 単位である。総単位数 173 に対して必修科目 107 単位、選択科目 66 単位となり、約 4 割が選択科目となっている。
- 11) カリキュラム編成は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則った科目により構成されている。2012(平成 24)年度同規則の一部を改正する省令の施行により、保健師教育課程は選択制も可能となったが、本学部では保健師教育の重要性に鑑み、全学生が看護師及び保健師の国家試験受験資格を取得することができる教育課程としている。
- 12) 推薦入試合格者に対して、入学までに課題を課し、入学後の学習環境・習慣へスムーズに移行できるよう対策を講じている。また、2014(平成 26)年度より、3 月中の一日、入学予定者(推薦入試・一般入試入学手続者)に対して、看護学を学ぶために必要な学習姿勢、理科科目の基礎知識を学ぶ「リメディアル教育」をキャンパス内で実施している。

〈6〉 国際教養学部

- 1) 教育課程は次のとおり、「基盤科目」、「展開科目」、「キャリア支援プログラム」、「関連科目」の 4 群を体系的に編成している。
(資料 4-2-31 国際教養学部カリキュラム概略図)
 - (1) 「基盤科目」は、主体的な学びへの導入を図る科目を配置するとともに外国語運用能力(英語・スペイン語・フランス語・中国語)と基礎的教養(日本と地域の理解・人間と社会の理解・自然と科学の理解・職業とキャリアの理解)を醸成する科目から編成されている。
 - (2) 「展開科目」は「基盤科目」の上に位置付けられ、3 領域(グローバル社会領域・異文化コミュニケーション領域・グローバルヘルスサービス領域)における概論科目を履修し、その上で自己の関心に応じ、3 領域の中から 1 領域を選択し、当該領域に設定した授業科目を 16 単位以上履修する体系を編成している。なお、グローバル化時代の国際社会全体と自身の選択した領域の関係性などについても理解を深められるよう、他の領域の授業科目についても履修できるように配慮し、最終的には、「グローバル市民演習Ⅰ・同Ⅱ」により、自己の選択した領域に関連する課題について研究し、場合によっては他領域での学びも組み込み、卒業論文を作成することになっている。
 - (3) 「キャリア支援プログラム」は、上記の体系的な教育課程に沿った 4 年間の学修に加え、前述の職業とキャリアの理解の応用科目として正規の教育課程に組み込み、開設している。
 - (4) 「関連科目」は、中学校・高等学校教諭(一種免許状)(英語)取得に必要な科目の一部を正規の教育課程に組み込み、開設している。授業科目は教職を目指さない学生も履修ができる。
- 2) 教育要項には、順次性のある授業科目の体系的配置を可視化できるようナンバリングを掲載している。
(資料 4-2-32 国際教養学部授業構成(ナンバリング))
- 3) カリキュラム・ポリシーに基づき有機的かつ体系的に学修を積み上げ、グローバル市民を養成する教育内容を以下のとおり提供している。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

- 4)1 年次は、外国語運用能力及び幅広い教養の修得等、グローバル市民の基礎を形成する段階である。導入科目として前期に「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」を履修する。これは、学部の専任教員が参加し交代で自分の専門分野について入門的な講義をすることで、本学部が扱う教育研究分野の広がりとこれからの学修の目的を学生が認識することを可能にしている。その他の導入科目として「基礎演習(プレゼンテーション)」、「基礎演習(ファシリテーション)」、「文章表現法/論文・レポートの書き方」を必修科目として設けており、母語である日本語でのコミュニケーション力を磨けるようにしている。前期は、テーマを設けてプレゼンテーションを行い、後期は小グループに分かれてファシリテーションの方法を学べるようにしている。外国語教育科目として「Interactive International English I」、「Interactive International English II」を必修科目とし、少人数クラスで協同学習によるコミュニケーションな授業を行う。更に複数言語履修を義務付けており、第二外国語科目として「スペイン語(初級)」、「フランス語(初級)」、「中国語(初級)」から1言語を選択必修科目(4単位)として履修することとしている。「基礎科目」として4つの分野「日本と地域の理解」、「人間と社会の理解」、「自然と科学の理解」、「職業とキャリアの理解」の科目群から、幅広い教養の修得に必要な科目として「英米文学概論」、「社会学概論」、「コミュニケーション概論」、「わかりやすい統計」の計4科目8単位を必修科目としている。その他28科目を選択必修科目又は選択科目として配置している。
- 5)2 年次は、グローバル市民としての資質を涵養する段階である。外国語科目は英語力の更なる強化を図るために「English for Global Citizenship I」、「English for Global Citizenship II」、「English for Global Citizenship III」、「English for Global Citizenship IV」を必修科目として課している。第二外国語科目は中級科目を選択必修科目として設定し、コミュニケーション能力を高められるようにしている。「基礎科目」の必修科目として「文化人類学」を配置している。選択必修科目・選択科目として20科目から幅広い履修の選択を可能にし、グローバル市民としてふさわしい幅広い教養を修得できるようにしている。「展開科目」の「グローバル社会領域」、「異文化コミュニケーション領域」、「グローバルヘルスサービス領域」のそれぞれの領域を理解し、学生が自分の学びの方向性を定めるために、各領域の概論となる科目を2年次後期に必修科目として配置するほか、導入的な科目を選択科目として配置している。
- 6)3 年次・4 年次は、将来の職業選択を視野に入れ、選択した領域を重点的に学び、グローバル市民としての素養を修得する段階である。3年次に興味・関心等に基づき、「展開科目」の「グローバル社会領域」、「異文化コミュニケーション領域」、「グローバルヘルスサービス領域」の3領域から1領域を選択することとしている。選択した領域に応じた「展開科目」について、2年次履修分も含めて全体で16単位以上を選択して履修する。いずれの領域を選択しても「異文化コミュニケーション領域」に設けた一定の科目群の中から、2年次履修分も含めて全体で8単位以上履修する。その上で、他の領域の中からも自らの進路や関心に応じて「展開科目」、「キャリア支援プログラム」の中から必修科目及び選択必修科目を含み50単位以上を修得することとしている。英語力をベースとした実践的なスキルの修得を目的として、「英語論文を書く」、「英語を通して異文化コミュニケーションを学ぶ」、「英語で生物」、「英語でスポーツ」、「医療の英語(基礎)」、「医療の英語(応用)」、「看護の英語」、「第二言語の習得」を選択必修科目として4単位以上修得することとしている。また「異文化コミュニ

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

ケーション領域」の中にも翻訳や通訳を学ぶことができる科目を配置している。3年次に「グローバル市民演習(基礎)」、4年次に「グローバル市民演習(発展)」を配置し、学生が設定した研究テーマに基づいて決定される担当教員の指導を受けることにしている。

〈7〉 大学院医学研究科

- 1) 修士課程カリキュラムは、「一般教育科目」、「専門教育科目」、「特別研究科目」の3つで体系的に編成されている。「一般教育科目」では5科目を必修科目として集中的に履修する。また、「専門教育科目」においては、専門性を高めるために17科目を選択科目として設置し、大学院生自身の学修に必要な科目を幅広く履修できる科目設定としている。「特別研究科目」では、関心のある分野を探究し、修士論文として研究成果とするために研究指導教員による研究論文指導を受けることとしている。
- 2) 大学院修了後、医療関連分野に多くの者が従事すると想定されることから、医療従事者からの基礎的、専門的知識に対する要請に十分に応えられる授業科目を「一般教育科目」、「専門教育科目」に配置し、医科学に関する十分な知識を背景に「特別研究科目」を通してプレゼンテーション能力が向上するよう各授業科目を構成し、学生スキルを向上させるよう工夫している。2年次9月には研究成果や修士論文準備状況等を発表する中間報告会が実施され、評価委員による評価を受け、12月の学位申請の準備が進められる。
- 3) 「一般教育科目」8単位、「専門教育科目」14単位以上、「特別研究科目」8単位の合計30単位以上取得することを修了要件としている。修了要件単位数を取得見込みである者が1～2月に学位論文審査を受け、審査に合格した者に修士(医科学)の学位を授与している。

(資料4-2-12 大学院医学研究科修士課程シラバス)

- 4) 博士課程カリキュラムの授業構成は、「コアプログラム」と「専門プログラム」に分かれ、体系的に編成されている。「コアプログラム」は、以下(1)(2)(3)のコースワークにより構成されている。

(1)Unit1 基礎教育

Basic Course、Research Support Course(1年次の大学院初期教育)およびAdvanced Course(2年次の研究プロジェクト遂行と学位論文作成のための基礎教育)

(2)Unit2 実践教育

13のテーマから選択可能な基礎・臨床医学融合型のコースワーク、実践的な研究実行能力を育成

(3)Unit3 レクチャーシリーズ

大学院特別講義(英語による講義を含む)、Current Topics(学内で開催される最先端の医学・医療セミナー)及びe-learning等のコースワーク

- 5) 「専門プログラム」は、以下(4)(5)により構成されている。

(4)Unit4 専門コース

大学院生は、「研究者養成コース(基礎系・臨床系)」、「高度臨床専門家養成コース(臨床研究)」の何れかのコースにより、自身の研究テーマに応じた学修・研究を行う。それらに加えて、「スペシャリスト養成コース(感染制御専門家養成コース・次世代先導的がん研究者養成コース等)」が開設されており、各自のキャリアパスに応じて、各コースにおける開講科目を横断的に履修することができる。

(5)Unit5 専門研究

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

論文基礎・応用演習として、学位論文研究指導を行う。3年次後半には、学位論文の研究に関する中間発表(ポスターセッション)を行い、審査員による評価と助言を受けると同時に研究の進捗状況が研究科委員会に報告される。特に3年次から4年次にかけては、論文作成の基礎・応用演習を通じて研究結果を論文としてまとめ、自立した研究者として成長するための指導が行われる。

- 6) Unit1 基礎教育は1年次と2年次に一週間集中講義(必修)として行われ、計4単位を取得する。Unit2 実践教育は1年次の選択必修科目として行われ、13コースから1コースを選択し1単位を取得する。Unit3 レクチャーシリーズにおいては、科目毎に単位数が定められているが、特に各大学院生が興味のあるテーマを選択し履修する大学院特別講義及び大学院特別講義(英語)については、1~3年次まで毎年度、計5回受講することを必須とし、1講義につき0.1単位が与えられる。Unit4・5では研究分野ごとに策定されるカリキュラムに従って履修し、各年次における指導教授からの評価に基づき、単位を認定する(最大10単位/年度)。博士課程における修了要件単位数30単位を取得見込みである者は学位論文審査を受け、審査に合格した者に博士(医学)の学位を授与している。

(資料4-2-14 大学院医学研究科博士課程シラバス)

〈8〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 博士前期課程のカリキュラムは、入学後の半年間で、基礎科目(6単位)を集中的に開講する構成となっており、修士論文作成にあたり必要な基礎知識の修得、情報検索などを短期集中・能動的に学ぶことにより、以後の各自の研究を無理なく進めることが可能になるように体系的に編成している。

(資料4-2-33 大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程カリキュラム体系図)

- 2) 博士前期課程修了の要件は、コースワークとして基礎科目(基礎科目、スポーツロジ(専門基礎)科目)10単位、専門科目(専門応用科目、保健体育科教職科目、共通科目、専門科目)20単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、リサーチワークとして、各自のテーマにあわせた研究指導教員のもと2年間を通じて必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に修士(スポーツ健康科学)の学位を授与している。
- 3) 中学校教諭一種免許状(保健体育)を有する者、又は高等学校教諭一種免許状(保健体育)を有する者は、所定の科目・単位を修得することによって、それぞれの専修免許状(保健体育)を申請している。
- 4) 博士後期課程修了の要件は、コースワークとして必修科目(特別研究6単位、スポーツ健康科学特別講義2単位)8単位、選択科目2単位以上、合計10単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士の学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することが必要である。
- 5) 博士後期課程では、特別研究、特別講義、特別演習、特論を通じて、専門研究の深化と総合的なスポーツ健康科学の確立、実践的展開を意図した独創的で高度な教育プログラムを実現することができるよう配慮している。3年間を通じてほぼリサーチワークが中心となる。

(資料4-2-34 大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程カリキュラム体系図)

6) 開講科目

- (1) 博士前期課程では、学修成果を実体験によって確認し高めていくため、課題解決型プラクティカムを設けている。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

(2) 共通科目「スポーツロジーレクチャーシリーズ」では、関連学会への参加・発表を促進するために、各教員から推奨された学会参加について、当該専門領域における重要度等から授業出席回数1～2回に換算し、5回相当で1単位を付し(上限2単位)、大学院生の研究活動を積極的に評価している。

7) 学位論文の作成等を通じた教育・研究指導

(1) 博士前期課程の教育課程は、スポーツの科学的基礎、社会科学的価値及びヘルスプロモーションにおける各分野の特性に従って展開される。必修科目として、修士論文につながる「スポーツ健康科学研究方法論」、「スポーツ健康科学研究法実習」がカリキュラムに組み込まれている。

(2) 大学院生の語学力向上のため、博士前期課程では、共通科目中にスポーツ健康科学領域に関連した学術テーマについて英語でのレクチャーを聴き、その話題を中心にディスカッションを行う「スポーツ健康科学英語特別講義」を開講している。また、国際学会における英語による発表及びその準備(リハーサル、発表、質疑)として、「スポーツロジー実践英語」を設けている。

(3) 博士後期課程の教育課程には、必修科目「スポーツ健康科学特別講義」と、特別演習を含む選択科目(14科目)を配置している。

(4) 研究(論文)指導を「特別研究」として単位化(6単位)している。また、論文審査までの指導は研究指導教員だけでなく、専門分野を越えてそれ以外の教員からも指導を受けることができるように公開で進捗状況報告会が行われており、「深化と総合」という博士後期課程のテーマを具現する体制をとっている。

〈9〉 大学院医療看護学研究科

1) 教育課程は、教育目標の達成が可能となるよう共通科目/専門科目/演習・研究指導の3区分を設けている。また、博士前期課程では特別研究コースと専門看護師教育課程を踏まえたCNSコースを設けており体系的に編成している。

(資料4-2-35 大学院医療看護学研究科カリキュラム体系図)

2) 博士前期課程においては、下記(1)～(3)により合計30単位以上を修得の上で修士論文又は課題研究論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。また、大学院修了後に専門看護師(CNS)認定試験受験を希望する者は、日本看護系大学協議会が専攻毎に定める科目の単位修得を要する。

(1) 共通科目

研究の基盤となる知識を習得する「看護学研究方法論」及びデータ収集と測定方法を習得する「応用統計学」を必修科目としている(計4単位)。看護専門職者として、より広い視野に立って様々な分野において活躍できる人材を養成するため、専門科目の基礎となる科目、看護学と密接に関連する医学・医療技術、医療現場や保健医療福祉連携等に係わる科目や国際看護に関連する科目などを選択科目として幅広く開講している。また、医学研究科やスポーツ健康科学研究科と連携した科目も組み込まれている。必修科目4単位を含め、計8単位以上の履修が必須である。

(2) 専門科目

専門科目では、各専門専攻分野でそれぞれの専門性を活かした研究、あるいは高度実践看護職に必要な科目が選択できるよう構成している。特別研究コースの選択者には、様々な

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

レベルの心と体の健康支援を科学的に探究する授業科目を準備している。人々の健康と幸福を支援する上で必要となる理論的な基礎を構築するための研究を推進するとともに、看護専門職者としての高い倫理観と科学的思考を備えた広い視野を持つ教育・研究者及び看護実践指導者の育成を図ることを目指している。その一貫として、一定の実務経験を持つ看護職者には大学院修了後に認定看護管理者受験資格が得られる専攻分野(看護管理学分野)も開講している。専門看護師教育課程(CNS コース)を選択した者には、病院及び地域社会で生活する人々の支援において中核的な役割を果たす専門看護師に求められる高度な看護実践能力を養うための教育内容を準備している。慢性看護・がん看護・感染看護・小児看護・老人看護・精神看護については、日本看護系大学協議会から専門看護師教育課程として認定を受け、教育を実施している。専門科目の中から専攻分野を中心とした10単位以上の履修が必須である。

(3)演習・研究

以下の演習・研究科目において、演習4単位と、特別研究6単位または課題研究4単位の履修を要する。

①演習

各専門分野の授業科目に合わせた演習が組み立てられており、国内外の文献を材料として、研究の課題や方法、内容等について分析・考察する。事例や研究論文について、問題点を把握し、その解決法について検討・議論することで、各自の研究課題における研究方法や分析方法を策定するとともに、看護実践への応用を検討する。専門看護師に必要なとされる演習では、上記の演習内容に加えて高度看護実践に必要な実践力が養える教育内容としている。

②特別研究

講義や演習で得られた知識と文献等の解析を踏まえ、各自が選択した授業科目の研究指導教員の指導の下に研究課題を決定し、科学的に探求することで修士論文を作成する。

③課題研究

専門看護師志望の学生が履修する。専門看護師教育課程に必要なとされる講義や演習で得られた知識と文献等の解析を踏まえ、各自が選択した授業科目の研究指導教員の指導の下に、研究課題を決定し、看護実践を通して研究課題を探求し論文にまとめる。なお課題研究で作成した論文は特別研究と同様の審査を受けることとしている。

3) 博士後期課程においては、下記(1)～(3)により合計18単位以上を修得の上で博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

(1)共通科目

看護学の本質を探究できる能力に基づいた質の高い研究成果に結びつくことを目的としている。看護領域での新知見を得るため、博士論文の研究計画書の立案及び研究遂行上の各種問題に対する教育・指導を行うことで学識と卓越した能力を養い、その結果を博士論文として完成させるために、必修科目として「看護学研究論」(2単位)を開講している。博士前期課程で修得した研究能力を深め、更に看護における研究方法の探求のために国内外の原著論文を精読し、未知の看護現象を明確化する研究方法の開発等に向け、必要な課題を見出すことを目指している。また、選択科目として看護学以外の分野での幅広い見聞や研究方法を学び、総合的な判断能力と看護の新たな概念や知識体系を構築するための基

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

盤を養い、より高度な研究方法を探索できることを目的として、「国際コミュニケーション」、「看護と医学・スポーツ健康科学」を開講している。

(2) 専門科目

専門科目では、広範な健康問題や看護課題について実践的な研究が行えることを目的とし、看護学の知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身に付け、課題の全体像と本質を捉え解決方法の探求を図ることを狙いとしている。研究課題に応じた専門科目を主科目として履修すること（2単位必修）に加えて、専門科目からさらに1科目以上を履修し（2単位必修）、複数の視座から看護職者の備えるべき看護実践能力の育成に必要な学問的な概念、構造、評価及び固有な機能を探求し、看護学を発展させる研究・教育的能力、高度専門職業人に必要とされる看護実践を発展させる研究・教育的能力の育成を目指している。

(3) 演習・研究

以下の演習・研究科目において、看護学演習2単位と看護学特別研究10単位の計12単位の履修を要する。

①看護学演習

各自の専攻した課題の事例や先行研究を分析し、現状の問題点を把握し、その解決法について検討・議論を行う。それらを踏まえ、課題解決のための理論と方法論、技法について実証的に研究する手法を探求することを目的としている。

②看護学特別研究

1年次から開講し、並行して履修する講義・演習による知識の活用及び論文・文献の検討を踏まえて、自己の研究課題に即した研究方法や分析方法の選定を行い、研究への適用を検討し、各自の研究課題を科学的に探究する。この過程を通して博士論文を作成していく。

2. 点検・評価

[基準4]

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

●基準4-2の充足状況

学部教育では、カリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスを作成し、授業を開講している。順次性・体系的に配慮して、各カリキュラムを編成している。また、カリキュラムマップ、ナンバリングをシラバスに掲載して、カリキュラムの体系的な理解が出来るようにしている。大学院教育では、科目履修と学位論文作成に至るまでのプログラムをバランス良く配置し、研究者又は高度専門職業人に必要な教育内容を提供している。以上のことから、基準を満たしている。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

- 1)各学部において、初年次教育を目的とした科目を設定し、後期中等教育から大学での学びへの円滑な移行を促している。
- 2)英語教育はTOEFLを中心とした教育を展開しており、実践的な英語教育にすることで、国際化への対応に取り組んでいる。

〈2〉 医学部

- 1)1年次より、将来の医師・医学研究者としてのプロフェッショナルリズムの意識を育み、キャリア形成を具体的に開始している。2014(平成26)年度からは新たなカリキュラム・ユニットとして「基礎医学入門」を設定し、医学体系を理解するために基礎医学の重要性をより明確にしたカリキュラムとした。

(資料4-2-36 基礎医学入門)

- 2)授業科目の各学年の配置状況が分かる概念図を学生に提示し、各種オリエンテーションを実施している。教育要項にも授業内容の概要を示し、自己学習を促している。また、2014(平成26)年度より、カリキュラムマップ、ナンバリングを作成し、教育要項に掲載した。

(資料4-2-22 M2~M6 ナンバリング)

(資料4-2-21 医学部カリキュラムマップ)

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1)1年生を中心に4月と12月の2回、TOEFL学内試験を実施している。2016(平成28)年4月の平均点は411点であったが、12月は平均点449点と38点上昇した。

〈4〉 医療看護学部

- 1)修業年限4年間で、看護師、保健師、助産師の3つの国家試験受験資格を得ることが可能であり、学生のニーズに応えられている。各国家試験合格率は、毎年、全国平均と比べ、高い水準を維持できている。保健師課程は、選択制で希望者全員が履修可能であるが、助産師課程は、実習施設の関係で、3年次に希望者のうちから10名程度を選抜し実習を行っている。
- 2)カリキュラム・ポリシーに基づき、各科目がどのように連携し配置されているかを示したカリキュラムマップや教育課程の概念図、ナンバリングを作成し履修要項に掲載しているほか、各科目の学習目標・到達目標、準備学習、成績評価方法・基準等を教育要項に掲載しており、学生の体系的かつ計画的な学習を可能にするとともに、自己学習を促している。

〈5〉 保健看護学部

- 1)2012(平成24)年度保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正により、保健師教育課程選択制も可能となったが、本学部は保健師教育課程の必修を継続した教育カリキュラムとし、保健師志望学生の期待に応えている。
- 2)1年生の4月と12月の2回、TOEFLテストを実施している。4月から12月へのスコア上昇は2015(平成27)年度は8.0点、2016(平成28)年度は14.6点であり前年度と比較し6.6点上昇となった。

(資料4-2-37 保健看護学部 TOEFL得点推移(1年生))

- 3)領域実習前の3年生を対象に臨地実習への動機づけ、看護技術レベルの確認のために、2015(平成27)年度にOSCE(客観的臨床実技試験)を導入した。2016(平成28)年度は、三島市の地域住民の他に、評価者として臨地実習受け入れ病院の臨地実習指導者も参加した。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

(資料4-2-38 OSCE 報告書)

- 4) 2013(平成 25)年度よりカリキュラム委員会、2014(平成 26)年度よりカリキュラムワーキンググループを立ち上げ、カリキュラムの現状の分析と新しいカリキュラムの検討を進めている。

〈6〉 国際教養学部

- 1) 学部導入科目とした「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」はオムニバス形式ではあるが、各教員は自身の担当日以外の授業内容も聴講を義務付けることにより、全体を通じて教育内容の共有化・一貫性の確保を図り、学生に対し各回の教育内容を有機的に繋いだうえで指導することが可能となった。
- 2) 将来グローバル市民として活躍出来るよう、教育課程外に「短期海外研修プログラム」を用意し、初年次より希望に応じて渡航が可能な実践的異文化体験及び学びの環境を与えている。2016(平成 28)年度は、大連理工大学(中国)に8名、シンガポールに6名、西シドニー大学(オーストラリア)に7名、サラマンカ大学(スペイン)に16名、国立台湾師範大学(台湾)に5名、ハワイ大学(アメリカ)に8名、その他プログラムに3名、の学生が参加した。留学支援委員会では「短期海外研修プログラム」の運営支援の他、長期留学を検討する学生への相談・支援を適宜行っている。

〈7〉 大学院医学研究科

- 1) 修士課程では、主に1年次前期に一般教育科目により基礎的な知識を身に付け、1年次後期からのより発展的な内容となる専門教育科目を履修するための礎を築く教育指導体制が整っている。
- 2) 大学院の国際化を推進すべく、博士課程において、ネイティブスピーカーによるアカデミック・ライティング講座(英語集中プログラム①)、TOEFL 対策講座(英語集中プログラム②)、英語のみにより実施される選択必修講義(大学院特別講義(英語))を実施しているが、大学院生の更なる国際性向上のため、2016(平成 28)年度より、大学院特別講義(英語)を従来の14講義(基礎系7、臨床系7)から25講義(基礎系7、臨床系18)に増加させた。また、国際的に活躍する医師・研究者を養成すべく、医学部学生、大学院生、臨床研修医を対象とした「順天堂国際医学教育塾」を実施しており、大学院生の英語力向上の場所として機能している。これらの取組みにより、毎年度、国際的に評価の高い医科学雑誌に多くの学位論文が掲載されている。

(資料4-2-39 Unit3 英語集中プログラム①②、大学院特別講義(英語))

- 3) 本研究科では2014(平成 26)年度に、CITI JAPAN の研究倫理教材(日本と米国の2つのNPO 団体が協力して作成する、研究者の行動規範に関する e-learning プログラム)に機関登録し、2015(平成 27)年度より、研究倫理教育の重要性に鑑み、大学院修了までの当プログラムの受講を必須としている。

(資料4-2-40 CITI Japan ON スクリーン講座の受講)

〈8〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 順天堂大学大学院学則第6条第3項の規定における「優れた研究業績を上げた者」に対し、博士前期課程では1年間の在籍、博士後期課程では2年間の在籍において修了できる早期修了制度を設置している。2016(平成 28)年度は、博士前期課程において1名の対象者があった。

(資料4-2-41 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程早期修了に関

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

する申し合わせ)

〈9〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 博士前期課程では研究科開設以来、専門看護師教育課程の充実を図り、日本看護系大学協議会より6分野の認定を受けている。
- 2) 高度な看護専門職者を教育するための教育者・研究者を育成するために2014(平成26)年度より開設した博士後期課程が完成年度を迎え、大学院での教育・研究がより一層整備された。

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

- 1) 初年次教育については、定期試験等による検証を通して教育効果を高めることができるよう、各学部において教育内容・方法の充実を図っていく。
- 2) TOEFLを中心とした英語教育を継続し、大学を挙げて英語力を強化する取り組みを行っている。

〈2〉 医学部

- 1) 国際的に活躍出来る、知性と教養と感性溢れる臨床医を養成していく。また、基礎臨床融合研究の成果を臨床応用するための研究を推進する研究医を養成していく。
- 2) 学生の教育課程の体系的理解を促し、将来的に学習方法をアクティブラーニングへ質的転換を図る。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) TOEFL 学内受験、短期海外語学研修等の英語教育を継続して行い、グローバル社会に対応した人材養成を行う。
(資料4-2-42 TOEFL 学内受験者数)
(資料4-2-43 スポーツ健康科学部海外英語研修プログラム参加者数推移)

〈4〉 医療看護学部

- 1) 看護師、保健師、助産師の各教育課程における高水準の教育実績を維持すべく、実習施設の確保に努めるとともに、カリキュラム・ポリシーや教育課程・教育内容の進展及び充実を図る。
- 2) コンピテンス・コンピテンシー及びディプロマ・ポリシーに基づくロードマップを策定し、体系的な学習成果の達成を推進するほか、教員ワークショップ等のFDによりアクティブラーニングへの質的転換を図る。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 保健師志望学生の期待に応えるべく、実習施設を確保する努力を重ね、保健師教育課程の必修を継続する。
- 2) 1年生12月のTOEFLで、全員が400点以上となることを目標として、クラス編成の工夫とe-learning教材の充実を図る。
- 3) 3年次の臨地実習に臨むにあたり、OSCE(客観的臨床実技試験)を実施している。実施後のアンケート調査より、学生にとっては、技術到達度の自己評価ができ、臨地実習への学習動機づけとなっていることが確認された。今後も、OSCEを継続していくが、課題・実施方法等の改善を

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

図っていく。

- 4)カリキュラム委員会及び下部組織のカリキュラムワーキンググループを中心として、学部の特徴を活かした新カリキュラム編成やコンピテンス基盤型カリキュラムへの移行を継続的に検討していく。

〈6〉 国際教養学部

- 1)「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」は次年度以降もオムニバス形式を予定していることから、引き続き担当日以外の授業内容の聴講を義務付け、全体を通じて教育内容の共有化・一貫性の確保を図っていく。
- 2)「短期海外研修プログラム」のプログラム内容を再点検するため、留学支援委員による実地視察を行っている。視察を通じて短期海外研修プログラムのみならず長期留学についての可能性も広げていく。

〈7〉 大学院医学研究科

- 1)修士課程については、カリキュラムの改正等を検討しながら、来年度の修了予定者についても、引き続き十分な指導を行っていく。また、修士課程大学院生の専門性を更に高めるため、2017(平成29)年度より、統計解析に関する講義を開講し、教育プログラムを充実させていく。
- 2)大学院生の国際性の更なる向上のため、博士課程において実施されている英語講義の受講を徹底する。また、大学院生の英語力向上の場として提供している「順天堂国際医学教育塾」についても周知を徹底し、より多くの大学院生が利用できるよう努める。
- 3)研究倫理教育のより一層の充実のため、CITI Japan ON スクリーン e-learning 講座受講を徹底する。

〈8〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1)博士前期課程において早期修了制度を利用した者には、博士後期課程への進学を積極的に促し、優秀な人材を早期に育成する。

〈9〉 大学院医療看護学研究科

- 1)現在認可を受け実施している専門看護師教育課程は26単位制であるが、日本看護系大学協議会が推奨する38単位の教育課程への移行を2016(平成28)年7月に申請し、同年12月に認定を受けた。これにより慢性看護、がん看護、感染看護、小児看護、精神看護、高齢者看護に加え、母性看護、在宅看護の計8分野において2017(平成29)年度より38単位教育課程の専門看護師教育を実施していく。
- 2)博士後期課程においても、より高度な看護専門職者及び教育・研究者を輩出できるよう引き続き教育課程の充実に努める。

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

4. 根拠資料

根拠資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
資料4-2-1	医4-2-1	医学部教育要項(既出 資料4-1-4)
資料4-2-2	医4-2-2	医学部年間授業時間割表
資料4-2-3	ス4-2-1	スポーツ健康科学部シラバス(既出 資料4-1-5)
資料4-2-4	ス4-2-2	スポーツ健康科学部年間授業時間割表
資料4-2-5	医看4-2-1	医療看護学部教育要項(既出 資料4-1-6)
資料4-2-6	医看4-2-2	医療看護学部履修要項(既出 資料4-1-7)
資料4-2-7	医看4-2-3	医療看護学部年間授業時間割表
資料4-2-8	保看4-2-1	保健看護学部教育要項(既出 資料4-1-8)
資料4-2-9	保看4-2-2	保健看護学部年間授業時間割表
資料4-2-10	国教4-2-1	国際教養学部教育要項(既出 資料4-1-9)
資料4-2-11	国教4-2-2	国際教養学部年間授業時間割表
資料4-2-12	院医4-2-1	大学院医学研究科修士課程シラバス(既出 資料4-1-10)
資料4-2-13	院医4-2-2	大学院医学研究科修士課程年間授業時間割表
資料4-2-14	院医4-2-3	大学院医学研究科博士課程シラバス(既出 資料4-1-11)
資料4-2-15	院医4-2-4	大学院医学研究科博士課程年間授業時間割表
資料4-2-16	院ス4-2-1	大学院スポーツ健康科学研究科シラバス (既出 資料4-1-12)
資料4-2-17	院ス4-2-2	大学院スポーツ健康科学研究科年間授業時間割表
資料4-2-18	院看4-2-1	大学院医療看護学研究科教育要項(既出 資料4-1-13)
資料4-2-19	院看4-2-2	大学院医療看護学研究科年間授業時間割表
資料4-2-20	医4-2-3	医学部カリキュラム概要図
資料4-2-21	医4-2-4	医学部カリキュラムマップ
資料4-2-22	医4-2-5	M2～M6 ナンバリング
資料4-2-23	ス4-2-3	スポーツ健康科学部カリキュラム体系図
資料4-2-24	ス4-2-4	スポーツ健康科学部カリキュラムマップ
資料4-2-25	ス4-2-5	スポーツ健康科学部カリキュラムツリー
資料4-2-26	ス4-2-6	科目ナンバリング
資料4-2-27	医看4-2-4	医療看護学部カリキュラム図
資料4-2-28	医看4-2-5	医療看護学部 卒業要件及び看護師・保健師・助産師国家試験 受験資格要件
資料4-2-29	保看4-2-3	保健看護学部カリキュラム概念図
資料4-2-30	保看4-2-4	保健看護学部授業科目一覧表(履修計画表)
資料4-2-31	国教4-2-3	国際教養学部カリキュラム概略図
資料4-2-32	国教4-2-4	国際教養学部授業構成(ナンバリング)
資料4-2-33	院ス4-2-3	大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程カリキュラム体系 図

第4章 教育内容・方法・成果

2)教育課程・教育内容

根拠資料No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
資料4-2-34	院ス4-2-4	大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程カリキュラム体系図
資料4-2-35	院看4-2-3	大学院医療看護学研究科カリキュラム体系図
資料4-2-36	医4-2-6	基礎医学入門
資料4-2-37	保看4-4-5	保健看護学部 TOEFL 得点推移(1年生)
資料4-2-38	保看4-4-6	OSCE 報告書
資料4-2-39	院医4-2-5	Unit3 英語集中プログラム①②、大学院特別講義(英語)
資料4-2-40	院医4-2-6	CITI Japan ON スクリーン講座の受講
資料4-2-41	院ス4-2-5	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程早期修了に関する申し合わせ
資料4-2-42	ス4-2-7	TOEFL 学内受験者数
資料4-2-43	ス4-2-8	スポーツ健康科学部海外英語研修プログラム参加者数推移